



今年の夏は真夏日が10日連続続くなど大変暑かったのを思い出します。これからは秋。過ごしやすい天気になって欲しいものです。

令和元年の五稜会病院と社会情勢

平成31年5月1日の新天皇の即位から「令和」が始まりました。「令和」「R」も馴染んできたようです。元号を使用している国は日本ぐらいらしいです。五稜会病院の診療録では、西暦と和暦が混在していますが、病歴については、和暦を主体にしています。見る人の年齢にもよるのでしょうか、私は和暦の方が馴染みやすいです。生年月日も和暦で記載します。最近のインターネット、スマホでは西暦入力も多くありますが、日本人ですので和暦記載の方がしっくり行きます。国際化とかグローバル社会といっても、先祖代々の文化やしきたりなど良いところは大事にしていきたいものです。古い文化を大事にしながら新しいものにもチャレンジしていく、これこそ「創造」を掲げる五稜会病院の良いところではないかと思っております。皆様のご健康を祈念しております。
医療法人社団五稜会病院理事長・院長：中島公博

五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

- 1 患者さんの病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
- 2 医療の情報開示を行い、患者さんとの信頼関係を大切に医療を行う。
- 3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
- 4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

学会・研究発表

五稜会病院では、最新の医療を提供出来るように、日々研鑽し努力しております。今年も例年通り、札幌市病院学会、北海道病院学会、日本精神科医学会学術大会などの地方会、全国学会、研究会へ積極的に参加しています。

御案内

第8回日本精神科医学会学術大会
令和元年7月4日・5日、札幌で開催されました。

当院の中島公博が実行委員長を担いました。当院からの演題は以下の通りです。

- 「我々の描く精神医療の将来ビジョン2012 7年後の検証にあたって」 シホ・ゾウム 中島公博
- 「錐体外路症状と緊張病症状の鑑別に苦慮し、m-ECTが著効した統合失調症の一例」 貴志昌矢
- 「自閉スペクトラム症の診断と知能検査」 春名大輔
- 「ストレスチェックの結果から見た、医師による面接指導の効果の検討」 中村亨
- 「復職後のフォローアップとして導入した職場定着支援プログラムの効果」 高谷広美
- 「当院におけるICへの取り組みと今後の災害対」 福田徹
- 「統合失調症患者の地域定着支援～地域支援事業所を含む本人参加型多職種コラボの活用～」 星玲奈
- 「思春期ケースから導く看護カテゴリーのあり方」 柵山るみ
- 「本人参加コラボの実践の中でスタッフが抱えている思いと今後の課題」 鈴木大輔
- 「薬物乱用を認めた発達障害に薬物療法が奏功した一症例」 古瀬諒二

第24回日本ストレスケア病棟研究会

今回は佐賀県唐津市の虹と海のホスピタルが担当です。第22回の研究会は五稜会病院で開催しています。当院からは2名が参加致し、勉強して参ります。

患者さんの権利綱領

五稜会病院の職員は、患者さんの次の権利を順守して日々の医療を行います。

- 1 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
- 2 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
- 3 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
- 4 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
- 5 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
- 6 希望によりセカンドオピニオン（他の医師の意見を聴くこと）を受ける権利
- 7 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

最近の精神科医療政策のご紹介

★受動喫煙防止法

平成30年に可決した改正健康増進法では、全ての人に罰則付きで禁煙場所での喫煙を禁じ、これまで努力義務だった同法の受動喫煙防止を義務化しました。東京五輪・パラリンピック前の令和2年4月に全面施行となります。

改正法は、望まない受動喫煙をなくすることが目的です。住宅やホテルの客室を除く全ての施設や公共交通機関が対象です。令和元年7月1日から、学校や病院、行政機関は敷地全体を禁煙とし、受動喫煙が起きない屋外の決められた場所でしか喫煙できなくなりました。その他の施設では屋内に喫煙専用室を設けることができますが、国が定める基準を満たす必要があります。ただ、飲食店は例外的に経過措置を設け、客席面積が100平方メートル以下で、個人または中小企業の既存店なら喫煙が認められています。

改正法では、急速に普及している「加熱式たばこ」も対象になっています。ただ、健康影響が未解明として、紙巻きたばこよりも規制は緩く、加熱式たばこ専用の喫煙室では飲食ができることになっています。また、禁煙エリアに灰皿などを設置した施設管理者に50万円以下、禁煙エリアで喫煙した人に30万円以下の罰則もあり、都道府県知事らの指導や勧告、命令に従わない場合に適用されます。

施設別の受動喫煙対策

2019年夏	<ul style="list-style-type: none"> ● 学校 ● 病院 ● 保育所 ● 行政機関 <p>完全禁煙 屋外に喫煙所は設置可</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務所 ● ホテル ● 老人福祉施設 ● 飲食店(チェーン店、大規模店) <p>原則禁煙 喫煙専用室の設置可</p>
20年4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 飲食店(100㎡以下の既存店) <p>経期過限措置未定の入り口に「喫煙可」などと表示すれば喫煙できる</p>

当院は患者さん本位の医療を提供しようと
考えております。
お気づきの点はお相談下さい。

治験のご協力をお願い

現在、当院では「統合失調症」「小児・思春期うつ病」に対する薬剤の臨床治験を行っています。創薬(薬を創りだす)は国家戦略の一部です。臨床治験を行わないと、良い薬を世の中に出すことは出来ません。参加される方には負担軽減としての費用を差し上げています。詳しく知りたい方は主治医にご相談下さい。
統合失調症

典型的な症状は幻聴と妄想です。最近では主治医から病名の告知もなされています。かつてのような不治の病ではありません。適切な薬物療法が必須です。

うつ病(成人)

うつ病(小児・思春期)

抑うつ気分、興味喜びの喪失感等の症状があればうつ病の診断になります。成人と18歳未満の方が対象です。いずれの治験薬は、既に上梓されている薬剤で適応拡大のための臨床治験です。

五稜会病院 概要

標榜科名：精神科・心療内科・内科・消化器科

病床数 193床

- 急性期病棟 48床
- ストレスケア・思春期病棟 48床
- 療養病棟 A 49床
- 療養病棟 B 48床

従業員数 約200名

- 医師数 常勤 8名 非常勤 5名
- 看護師 71名 准看護師 10名
- 薬剤師 2.5名
- 臨床検査技師 1名 非常勤 4名
- 臨床心理士 9名 (公認心理師 8名)
- 作業療法士 10名 スポーツインストラクター 5名
- 精神保健福祉士 10名

五稜会病院沿革

- 開設 昭和47年(1972年)
- 医療法人開設 平成2年(1990年)

編集後記

令和元年の夏は非常に暑い日が続きました。札幌市では熱帯夜も3日連続でありました。大通りのビアガーデンはさぞ盛り上がったのでしょうか。でも、もう秋の気配。オータムフェスタの季節。1年は早いものです。(K.N)

発行：令和元年8月25日

〒002-8029

札幌市北区篠路9条6丁目2-3



発行責任者：広報委員 今井佐千子・広瀬慎一

電話：011-771-5660

http://www.goryokai.com

mail：GMC@goryokai.com

第8回日本精神科医学会学術大会(北海道)を開催して

令和元年7月4日、札幌コンベンションセンター第1会場において、「ただいまから、公益社団法人日本精神科病院協会第8回日本精神科医学会学術大会を開催致します(写真)」と、開会宣言をしたのが、昨日の様に思い出されます。令和になって初めての学術大会の大会長は平松記念病院理事長・院長の宗代次先生が務められ、小生は大会実行委員長としての大役を担わせて戴きました。

この学術大会は、日精協が公益社団法人になってから名称が変更になっており、その前身は、日本精神科病院協会精神医学会です。五稜会病院のストレスケア・思春期病棟が開設されたのは平成15年10月ですが、その年の7月10日・11日に、五稜会病院開設者の故田中稜一前理事長(当時日精協北海道支部長)を大会長として、第31回日本精神科病院協会精神医学会が開催されています。当時、新しい病棟が建築中だったことを思い出します。

本学会の招待講演には、地元北海道大学人獣共通感染症リサーチセンター国際疫学部門教授高田礼人(たかだあやと)先生をお呼びしました。演題名は、「エボラおよびマールブルグ出血熱」でした。高田先生は、世界で初めてエボラウイルスの感染メカニズムを解明した世界的第一人者です。ウイルスに対しては、「ウイルスに罪は無い。元々自然の中でウイルスは静かに暮らしていた。その自然を破壊し引きずり出したのは人間。だから感染症を引き起こすウイルスと向かい合うのは人間の宿命だと考えている。」と発言されています。昨今、アフリカではエボラ出血熱で多数の死者が出ており、世界的な最新の話題を提供して戴きました。

シンポジウムの一つには、本年の第13回日本禁煙学会学術大会大会長の社会医療法人公徳会トータルヘルスクリニック院長川合厚子先生の企画による「精神科病院での禁煙推進」がありました。小生が川合先生と座長を務めましたこの禁煙シンポは、令和元年7月1日から受動喫煙防止法施行で精神科病院でも原則敷地内禁煙となったことから、時期を得た内容であったと思います。幸い、学術大会の参加者は、総勢約1600人となり盛況でした。

また、学会翌日には、日精協山崎学会長らと親睦ゴルフ、その帰りに、山崎会長他2名の役員の先生に五稜会病院に寄って戴き、新棟、多目的ホール、ストレスケア・思春期病棟を見学して戴きました。開口一番、「綺麗な病院。手入れが行き届いている。」でした。これからもより良い病院創りをしていきたいと思えます。



(理事長・院長 中島公博)

第13回ふれあい祭り開催！！



令和元年8月24日、『令和へGOGO!GO稜会!!』のテーマで毎年恒例のGMSふれあい祭りが開催されました。各部署スタッフで用意した“フランクフルト”や“たこやき”“いもち”などの出店に加え、今年からはデイケアのメンバーさんとも協力しながらの出店となりました。当院へ通院中の方々や近隣住民の方々が皆さんお越しください、盛大な盛り上がりを見せました。皆さまのおかげで、無事終える事ができましたこと、あらためて感謝申し上げます。ふれあい祭りは、来年も開催予定ですので、今後ともよろしく願いいたします。

(精神看護専門看護師 鈴木大輔)



復職支援デイケア “リワークヴィレッジ”のご紹介

『メンタルヘルス不調によって休職・離職した方の職場復帰支援』を行っている“リワークヴィレッジ”は、2007年5月にスタートして以来、早いもので13年目を迎えました。その間、日本でも『ストレスチェック制度』や『働き方改革』に代表されるように、働く人のメンタルヘルスに大きな関心が寄せられてきています。五稜会病院のリワークヴィレッジでも、体調や回復の程度に合わせた段階的な職場復帰リハビリテーションを行い、特に再発予防に重点を置いた様々なプログラムを提供してきました。また、職場復帰後のフォローアップセッションとして、『職場定着支援(復職後半年以内)』と『ぷらっとカフェ(復職後1年以内・3年以内の2グループ)』を行い、早期の再休職予防にも力を入れています。

当院のストレスケア病棟や同法人内『札幌CBT&EAPセンター』とも連携し、メンタルヘルス不調者の予防から早期発見、早期介入、職場復帰支援、アフターフォローと、総合的にサポートできるよう今後も取り組みを強化していきたいと思っております。さらに、より専門性を高め効果的な支援を行うために、『日本うつ病リワーク協会』が認定する『リワーク認定スタッフ』の資格についても、今後取得していく予定です。

患者さんの復職に向けた支援でご協力できることがございましたら、ご遠慮なくお問い合わせください。

(リワーク主任 清水陽平)

